

は酸化鉄であり水の中で還元状態によって土から溶け出した鉄が根の出す酸素に触れた結果で、さらに根の周りに酸化鉄の膜があればミネラルや肥料が吸えず秋落ち稲になってしまう。一方、根が白いというのは石灰が効いている状態で、水稲は初期に石灰型で窒素を吸わせてpH6.5くらいに持っていた後半は苦土を効かせる。石灰は根を作り前半に効かせることで太く力強い根が伸び白くなる。種子処理については、暖地は暖地なりの酵母菌を探すようにと言われましたので、熊本微生物研究所などにも参り、いろいろ勉強しましたが、なかなか難しく本年は農産部武居さんより教えていただいた宮崎県で使用しておられた松本微生物研究所のPSB菌を購入し処理をしました。

まず最初に取り組むことについて小祝先生は、土壌分析が大事であり、それから施肥設計をするようにと言われました。そこでDr.ソイルを購入し土壌診断することに致しました。今年は既に田植え前で、思うようになりませんでした。今後は会員全力をあげて小祝先生との連絡を密に取り組んで参りたいと思います。

(報告：天川幸彦さん)

もっこす倶楽部 (2月20日)

今回たくさんの方が参加され、特に初めての人には、今まで気付かない新しい発見をされていました。

「有機栽培と化成栽培の違い」「土づく



もっこす倶楽部。九州では数多く小祝氏の勉強会を行なっているが、いつも参加者は熱心だ

くり 作物を作る為の諸条件」「栽培管理」以上の内容を2時間で行ないました。参加された方は、柑橘、野菜(きゅうり・インゲン・たまねぎ・レンコン・トマト)の生産者で、分析や写真を見ながら説明があり、有機栽培のほうが化成栽培より栄養価が高いということでした。土づくりでは、分析を見ながらの説明でしたが、少し時間が短かったようです。質問もレンコンの生産者の方からありました。

今回色々なグループの人が参加出来たことはよかったです。品目別に分けたほうがよかったように思います。(報告：浦下利之さん)

かごしま有機生産組合 (2月21日)

始良町のコミュニティセンターにて、生産者47名、事務局3名、計51名の出席で果菜類の栽培研究会という名目で勉強会を開催しました。

最初に小祝さんから、土作り、圃場の選び方、施肥設計のポイントについて総体的なお話をしていただき、その後具体的な品目ごとのポイントをわかりやすく説明していただきました。

土作りにおいては、物理性をきちんと理解し、自分の土がどのような状態であるのかをきちんと知ることが非常に重要で基本的なことだと、改めて分かったのでは？ また、植物の生理を知り、それに合わせた肥培管理ということが具体的にどのようなことなのか、ある程度説明していただいたので実感をもって聞けたと思います。ミネラルの働きとバランスについても、それぞれのミネラルがどのように働き、どんな現象として現れるかがわかり、果菜類の品質、収量の向上に向け有意義な一日であったと思います。

生産者も、各々レベルの差はあったでしょうが、それぞれに理解をし、今夏の果菜栽培につながる勉強会であったと思います。

(報告：岩本卓也さん)



大勢の参加者でにぎわったかごしまでの勉強会

めぐみの会 (2月22日)

今回勉強会のご案内を受け、早速申し込んだところ2月22日に開催の運びとなりました。当会近くの公民館でめぐみの会10人、かごしま有機より3人の参加がありました。

小祝先生の話は一度聞かせていただいていたのですが理解できずに行きました。今回は話の途中で質問もでき、座談形式でよく理解できました。目からうろこが落ちる思いでした。今まで何かと消極的でしたがDr.ソイルも早速購入して本気で取り組もうと思っています。

本年度は間に合いそうもありませんが、来年作にむけて張り切っています。来年産が出来るのがとても楽しみです。めぐみの会一同、今回の勉強会は大変喜んでおります。事務局の皆様ありがとうございます。小祝先生お疲れさまでした。

(報告：小ノ上喜三さん)